

いしかわ 県薬レポート

2008、7 No.59

編集発行

金沢市広岡町イ25-10
(石川県薬事センター内)

社団法人 石川県薬剤師会

会長 徳久 和夫

目 次

- 第99回総会…………… 2
- 第100回総会 …… 2
- 会長表彰…………… 3
- 石川県薬剤師会役員名簿
(平成20・21年度)…………… 4
- さらなる生涯学習へ向けて
徳久 和夫… 5
- 県民のための健康講座
平成19年度
県民啓発講座に参加して
浦川 智子… 6
- 木内監督と西田アナウンサー
中森 慶滋… 7
- 北陸信越薬剤師大会・同学術大
会について
こころの音 中森 慶滋…12
- 平成19年度
北陸調剤情報セミナー報告…………16
- ふたつの薬師寺展
～さくら期のアート～
院瀬見義弘…18



三浦 智子 画

第 99 回 総 会

平成20年3月30日(日)、ANAクラウンプラザホテル金沢において第99回総会が開催され平成19年度会務並びに事業中間報

告、第67回日本薬剤師会臨時総会報告、ついで、20年度事業計画案、歳入歳出予算案等が賛成多数で可決された。

第 100 回 総 会

平成20年5月25日(日)、金沢都ホテルにおいて第100回総会(永江典之議長)が開催された。冒頭、平成19年度にご逝去された岡二郎先生、宮島智彦先生、竹田榮太郎先生、竹森平八先生の4名のご冥福を祈り黙祷を捧げた。徳久会長の挨拶に続いて、石川県知事代理 針田県参事の祝辞と来賓の紹介があり、議事に入った。平成19年度会務並びに事業報告、歳入歳出決算報告等が賛成多数で可決承認された。総会終了後、「薬剤師の明るい未来を目指して」と題し児玉孝日本薬剤師会会長の特別講演があった。

懇親会の席上、瑞宝双光章を受章された

泉谷礼子先生と文部科学大臣表彰を受けられた竹田外喜男先生に徳久会長から花束が贈呈された。また、児玉孝日薬会長から泉谷勇雄先生に日本薬剤師会有効賞が授与された。昨年日本薬剤師会賞を受賞された徳久会長には能村副会長から花束の贈呈があった。



総 会



会 長 表 彰

第100回総会に引き続き、同会場で永年にわたり石川県薬剤師会会員のため、また会の発展に多大な尽力並びにご協力いただいた7名の方に対し、会長から表彰状と記

念品が贈られ、その功績を称えた。受賞者を代表して越野裕氏からお礼の挨拶があった。

平成19年度石川県薬剤師会会長表彰受賞者

中 道 さよ子 (加賀支部)

北 嶋 浩 成 (開局薬剤師部会)

中 村 幸 次 (白山のいち支部)

高 山 静 子 (女性薬剤師部会)

荒 木 万留美 (七尾鹿島支部)

越 野 裕 (県庁勤務薬剤師部会)

酒 屋 利 信 (開局薬剤師部会)

亀 井 勝一郎 (県庁勤務薬剤師部会)

▼児玉日薬会長



◀会長表彰



▲懇親会



▲会長表彰



◀懇親会

石川県薬剤師会役員名簿 平成20・21年度

平成20年5月25日現在

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	徳 久 和 夫	理 事	村 本 隆
副 会 長	綿 谷 小 作	*理 事	笹 原 紀代美
副 会 長	能 村 明 文	*理 事	杉 本 雅 規
副 会 長	向 孝 次	理 事	泉 総 英
副 会 長	三 浦 智 子	*理 事	山 崎 敏 誉
*副 会 長	吉 藤 茂 行	*理 事	中 村 安 博
常 任 理 事	中 村 正 人	理 事	平 場 芙美代
常 任 理 事	宮 本 謙 一	*理 事	大 成 建 二
常 任 理 事	北 嶋 浩 成	理 事	南 賀 文 隆
常 任 理 事	中 森 慶 滋	監 事	英 健 一
常 任 理 事	高 多 健 一	監 事	酒 屋 利 信
常 任 理 事	松 田 泰 美	監 事	石 倉 衛
常 任 理 事	村 田 世里子	顧 問	天 井 栄 博
理 事	佐 倉 礼 子	*顧 問	向 智 里
理 事	岸 原 聡	顧 問	浅 野 直 樹
理 事	池 田 智恵子	参 与	院瀬見 義 弘
理 事	渡 辺 誠 治	参 与	田 中 千 隼
理 事	松 浦 清	参 与	泉 谷 勇 雄
*理 事	木 戸 千 加	参 与	安 田 一 朗
*理 事	村 井 裕 大	*参 与	手取屋 瑞 子
*理 事	西 尾 浩 次	*参 与	村 戸 正 治
*理 事	西 島 宗 和	議 長	永 江 典 之
理 事	森 正 昭	*副 議 長	三 森 正 敏
理 事	石 浦 祐喜子	日 薬 代 議 員	能 村 明 文
*理 事	金 田 孝 子	日 薬 予 備 代 議 員	中 村 正 人

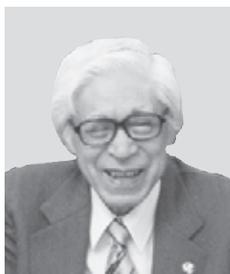
*新任

職 能 部 会 長

部 会 名	氏 名
開局薬剤師部会	中 森 慶 滋
学校薬剤師部会	綿 谷 小 作
病院薬剤師部会	向 孝 次
県庁勤務薬剤師部会	安 江 実
女性薬剤師部会	金 田 孝 子

支 部 長

支 部 名	氏 名	支 部 名	氏 名
加 賀	池 田 正 行	羽 咋	笠 原 守 郎
小 松 能 美	竹 森 幸 弘	七 尾 鹿 島	中 島 登
白山ののいち	直 田 弥 丈	鳳 珠	酒 屋 利 信
金 沢	兼 田 春 生	輪 島	日 吉 南 賀 子
河 北	高 井 裕 美 子	珠 洲	南 賀 文 隆



さらなる生涯学習へ向けて 《認定プロバイダー認証を取得して》



社団法人 石川県薬剤師会
会 長 徳 久 和 夫

この度、石川県薬剤師会の研修事業が評価され、第三者機構より認定薬剤師研修制度としての「認証」をいただきました。全国で8番目となるこの認証（平成20年6月18日付：認証番号G08号）は、地方薬剤師会では初めての取得であり、本会としては、まさに快挙と申せましょう。薬剤師として生涯学習に向けて新たな自信と勇気がわき上がる感慨を覚えます。本会は、自立した研修プロバイダーとして認定薬剤師研修事業を実施するため、あらたに「石川県薬剤師研修センター」を設置することとしました。

申すまでもなく、薬剤師は薬の適正使用を推進するヘルス・プロフェSSIONALです。進展し続ける医療の世界のことごとに対応するため、不断の研鑽が欠かせません。医療の担い手の一員である薬剤師に継続的生涯研修が強く望まれる所以です。

ところで、通信、交通、そしてインターネットなどの発達により、情報の多様化、共有化、高速化が急速に進められた反面、画一化、平均化、表薄化の傾向も無視できなくなりました。その上に、地域間格差の問題が顕在化し、新たな課題となっています。「教育・研修」といえども情報活動の

一つである限り、エントロピーの法則から逃れることはできません。増え続ける膨大な学習テーマ群から、常に最適の項目を選び出すことは、至難といわれます。学習コストも無視できません。地域のニーズは、その地域が最もよく知るところです。生涯研修を息長く効果的に継続していくためには、地域の独自性を盛り込んだ研修がなされねばなりません。

当会は、すでに認定薬剤師認定率全国第1位を達成し今日に及んでいます。一地方薬剤師会のささやかな取り組みではありましたが、地域に立脚した視点を大切にし、すべて手作りで計画的に、『全員参加』を合い言葉として営々と続けてきた結果であったと、今は素直に心嬉しく、あらためて会員ならびに関係者各位のご努力に敬意を表します。

薬学6年制の次にくるのは、新旧薬剤師免許格差是正とそれに伴う免許更新制であることは間違いありません。認定薬剤師制度がその助走路となることは必至です。軽疾患での処置・処方・投薬に「ナースプラクティショナー」機能導入の動きも無気味です。

認定率第1位に甘んずることなく、

ファーマシューティカルプラクティショナーの名に恥じない実践行動が伴わなければ、薬剤師の未来はかならずしも明るいとは言えません。

本会では、これまでの経験と実績を基に、新たな医療の体制と薬剤師業務現場の期待に応えるために薬剤師生涯学習の向上

と充実の支援を目指し、さらなる努力を傾注してまいります。

新たに発足する石川県薬剤師研修センター事業に対し、これまで以上のご理解とご協力を切望いたします。

(平成20年7月1日)

県民のための健康講座

今年も石川県薬剤師会が主催する県民啓発講座が開催された。第一部は「薬を安心して飲むために」と題しシンポジウムが行われた。会場の一般市民から、ジェネリック医薬品をはじめとするさまざまな質問が寄せられ、薬に対する感心の高さを伺うことができた。

第二部は元NHKアナウンサー西田善夫氏が特別講演を行った。当日東京は大雪で羽田から飛行機が離陸できないという知らせに気をもんだが、数時間遅れで無事小松に到着したと連絡が入ったときスタッフの間に歓声が起こった。西田氏の講演は予定通り行われた。

平成19年度県民啓発講座

第1部 「薬を安心して飲むために」

シンポジウム 「クスリは、あなたのためになっていますか？」

座	長	中森全快堂新庄薬局	中森	慶滋
シンポジスト		金沢・健康を守る市民の会	浦川	智子
		NTT西日本金沢病院	橋本	秀子
		新庄まつだ薬局	松田	泰美

第2部 特別講演：「名監督のコミュニケーション術」

演 者：スポーツアナリスト（元NHKアナウンサー、解説委員）

西田 善夫 氏

平成19年度 県民啓発講座に参加して

金沢・健康を守る市民の会
浦川 智子

私の場合は13年前の寒い日に薬指の第二関節が赤くはれて2～3日すれば治るだろ

うと思っていましたが治らなくて、病院で血液検査を受けた結果「リウマチですね」と言われ、「年寄りの病気だわ、どうしようー」、目の前がまっ暗になりました。それからずっと今日まで色々な薬を飲んでいきます。病院→薬局→サプリメント→漢方

薬、配置薬etc.長い間薬を飲んでいる為その間には食欲がなくなりだんだん気持ちが悪くなった時や、小さな赤い発しんが身体全体に出た時もあり、歩く時は杖を使っていた時期もありました。

1. 薬を安心して飲むために

薬には効用部分と副作用部分がある事を認識して飲む時によく注意する。

2. クスリはあなたの為になっていますか？

ジェネリック医薬品についてはまだまだ情報収集の段階ですが、我が国では今後増やして行く方向になって来ようようです。

3. かかりつけ薬局を持ちましょう

かかりつけ薬局では薬歴（薬の服用の記録）をつくり、薬の飲み合わせ（相互作用）や重複がないかが確認されるので、薬剤師さんを信頼することができ安心だと思えます。

4. 最後に

お薬手帳が出て自分の薬がわかる様になり、私の様な長期療養者には有り難い事です。薬と食事、運動・休養（睡眠）のバランスのお陰でどうにか元気なので毎日感謝しております。有難う御座いました。



木内監督と西田アナウンサー

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

西田アナウンサーが登場した。話し始めは原稿を読んでいるかのような早い口調であったが、次第にゆっくりと話すようになった。「スポーツは力とか技とか練習が大事とありますが指導者なんです。」そして自分の著作の一遍を紹介する「日本ではつい最近までスポーツともっとも縁遠いものは言葉だったような気がする」と私はこう書きました。

それから木内幸男という西田アナウンサーを魅了した甲子園の名監督について語りはじめた。木内監督は茨城県のこれまで二つの高校の監督を歴任し取手二高時代では総合成績8勝5敗（春2回、夏4回（優勝1回）、常総学院では総合成績32勝12敗（春5回（優勝1回、準優勝1回）、夏9回（優勝1回、準優勝1回））という輝かしい成績を残している。2003年にはダルビッシュ擁する東北高校に4-2で勝ち優勝した。これが木内監督の引退試合となる。優勝した時の監督のインタビューが場内に流される。胴上げされる木内監督の背後には応援席ではなく、なんと一般席から「木内コール」が沸き起こっている。中継しているアナウンサーも驚いたように「ああ、場内からは木内コールが起こっていますね」と紹介している。優勝インタビューで木内監督はこういった「そうですね一点ずつというのも野球なんです、タイミングを取らせて打たせたら、3点も取ってし

まって、こんなうまくいくことはなかなかありません。ピンチになったとき同点でもまだ日が高いからと腹をくくっていました。いやーまあ、ついてますよ。(問：監督にとって甲子園というのはどんな存在だったのでしょうか) 子供たちを人間として野球人として一人前にするところでここは大変いい教育の場です。ほとんどの子供たちがここで優等生になってくれます」

これまで甲子園に来たチームのなかで、最強のチームはどのチームだろうか。おそらく多くの人はいこうだろう、「桑田・清原のいたPL学園」そのPL学園に取手二高は決勝で対戦した。その時、桑田・清原はまだ高校二年生であったもののチームは前年優勝、今年も勝つと二連覇というずば抜けたチームであった。決勝で戦う二ヶ月ほど前の6月24日、取手二高はPL学園と練習試合を戦っていた。西田アナウンサーは選手に声をかけた。選手は桑田・清原のいる、PL学園と戦えたことが嬉しかったようで、「桑田が投げてくれました」と言ったことに「投げてくれましたとは、なんていじましいではありませんか」といった。確かにその試合は13-0という完敗であった。実力の差は歴然としていた。

そのPL学園と決勝で戦うことになった。前日の夜選手を集めてミーティングが行われた。木内監督はこう言った「甲子園の決勝と県大会の決勝とは天と地ほど違いがある。決勝にまでコマを進めることができたのはPLとお前たちだけだ。よくぞこ

こまで来た、旗も二本あるそうだから」と言い出した。「取手に帰っても旗を持っていけば格好がつく、だから明日は気楽にやれ」と、茨城弁で言った。その言葉を聞いた選手たちは安心からかとてもリラックスしてぐっすり寝たそうだ。「負けても旗がもらえるから勝っても負けてもどっちでもいいか」。

翌朝西田アナウンサーはこの話を聞いたが、しかし間違いにすぐ気がついた。旗があるのは春の選抜だけであって夏は優勝旗しかないことに。決勝の試合前、洗面台の前で待っていると木内監督がやってきて顔を洗いだした。そして顔を拭こうとしたときに、こういった。「木内さん夏は優勝旗一本しかありませんよ」と、そう言うときよっぽど驚いたみたいで、持っていたタオルを落としそうになった。「そんなことねえべさ、今から何年か前に栃木県の小山高校が決勝で大負けしたけど、でっけえ旗を持って帰ってきたべ」「木内さんあれ夏でしたっけ」と西田アナウンサーが言うと、しばらく長い沈黙の後「はあるだ…選抜だ」と、とつてもがっかりした表情を見せた。「じゃあ夏は負けっど何もらえんのけ」と聞くので「楯ですよ」といった。すると「でっかいけ」と聞いた。絶対にPL学園有利であったから大きいといって安心しちゃってらっては困るので「こんなもんですよ」と小さく手でその大きさをあらわした。「そんなんじゃ取手に帰っても格好つかないべさ」という「俺は春と夏とを勘違いしたんだな」とぼつりと

つぶやいた。顔を拭き終わると選手のほうを向いた。選手たちは清原が、がんがんなラッキーゾーンにボールを打ち込んでいるバッティング練習を見て、しーんとなっていた。「おーい旗は一本しかないってよ」選手たちはいっせいにこちらを向いた。

「いまNHKさんから聞いたんだけど夏は優勝旗一本しかねえんだと」一人の選手が言った「じゃあ夏は負けたら何もないんですか」「楯だ」一人の控えの選手が小さく言った「昨日二本あるっていったよな」木内監督はそれを聞いていう「いった、おらあ言ったぞ」それを聞いて選手たちは再びしーんとなった。「二本あるのは春なんだと、しゃーねえ今、夏なんだから」西田アナウンサーはどういう風に落とし前をつけるのかなと聞いていた。「おーい旗一本きゃねえんだったら、お前らやっぱ勝つきゃねーな」そのとき選手は全員どーっと笑った。そのとき西田さんの目頭が熱くなった。甲子園で多くのベンチの様子を一回戦から見て来たが、あんなに大きな声でベンチ全体で笑ったチームはいなかったからだ。

一回に取手二高が2点取った。PL学園が一点返したが、また取手が2点取った4-1で取手二高がリードして8回まで来た。清原がヒットを打ち4-3になり9回PLの攻撃、清水がレフトスタンドに入るホームランを打ち同点となる。延長になってしまったことで落ち込んでいる選手たちがベンチに帰ってきた。木内監督は選手に声をかけた。

「おまえらまだ甲子園で決勝ができたから、甲子園で野球ができたからよかったじゃないか」といった、そして選手に前を向かせた。次の後一言「まだ日も高いし」と言った。このことばで選手は実に元気になった。

10回の表ワンアウト一塁二塁というチャンスが来た。そのときのバッターは中島君というキャッチャーだった。中島君は木内監督がベンチで「肩の力抜けー肩の力抜けー」というジェスチャーをやっているのを見てニコニコ笑っていた。平常心で臨んだ彼は桑田が投げた球をレフトスタンドに入るホームランを放った。結局その試合は8-4でPL学園に勝った。取手が勝った、というよりPLが負けたという試合であった。翌年優勝したPLは取手に勝てれば三連覇だったからだ。

現在、都市対抗野球のチーム鹿島の監督をやっている中島君に、後日当時の話を聞いた「あの時君笑っていたね」ワンアウト二塁だったので自分の前のバッターが敬遠された。次のバッターであった彼はワンアウト一塁二塁の場面になったので定石どおり桑田に打球をピッチャー返しをしようと思いたいバットを取りに帰ったそうだ。バットを選んでいたら後ろから木内さんに「ショウイチ、お前背筋力いくつあるんだっけ」ときかれた。「210kgです」といったら「ほーそんなにあんのか、人様いっぱいみてんだから、その背筋力をちょっくらみせてこい」。と言いぽーんとお尻をたたいた。叩かれた勢いでバッターボックスま

でふらふらと歩き、監督のほうを見たら監督がニコニコした顔をしてたので笑ったといった。それで中島君は平常心で臨むことができたと言う。

今から14年前の1994年、その年甲子園に出れなかった名監督の話をいろいろ聞き番組を作った。その中の一人に木内監督もいた。木内監督が取手二高にいた頃はクラブ活動の援助と言う名目の課外授業の校外教育費をもらっていたが、それで当時50歳だった木内監督は月額7.5万円の収入だったそうだ。「木内さん生活大変だったでしょう」というと「かあちゃんが麒麟ビールで17.5万円もらってきていたから大丈夫だ。それに農家から嫁もらったもんだから、お米とお天道様はずっとついてくるものだと思っていたんだよ」。という。苦労話を聞くのは好きではない、スポーツで苦しい話は当たり前なのだから。みんな苦しい練習をこなしてきている。木内監督は苦しいというふうには話をしない。今プロで活躍しているのは仁志と日本ハムの金子の二人だけだ、それでも甲子園で春1回夏2回の3回も優勝した。これは選手よりも監督の力の大きさを表している。甲子園でベスト8まではチームの持つ実力かも知れないが、それ以降は監督の力が大きいのだ。

「木内マジック」という言葉がある。西田さんは本の中でこう書いた。木内マジックですねと言うと木内監督は「スポーツとは会話なんだべ」といった「甲子園に来て技術を売りものにしてもだめだ。この球を

打つにはこうしてああしてと教えてもできないものは、できるわけがない。いかに選手の気持ちを作ってやるかが大切だ。この試合の意義、がんばる目標、いかに戦うかという気持ちを作ることです。監督としてはもっと技術指導をしたいのでさびしいのですがそれはむだになります。方向付けするのが一番です」

木内さんの持つ言葉の魅力、それは何だろうか。スポーツというのはひとつのフルーツと考えることができる、スイカでもメロンでもいい。二つにパーンと割られてしまう。勝者と敗者に。そして勝ったものがヒーロー負けたものはセンチメンタルになってしまう。だからスポーツでの関心ごとは勝敗が必ず先に行ってしまう。しかしそのなかにある言葉には実に大事なことが隠されている。そこにスポーツの持っている文化として認められる時間がある。

最後に西田アナウンサーはこういった「今年北京でオリンピックが開催されます。金沢からも見に行く人はいるでしょう。でもオリンピックはね、テレビが一番ですよ。」

お 知 ら せ

日本学校薬剤師会のホームページが
全面リニューアル!!

<http://www.nichigakuyaku.org/>

北陸信越薬剤師大会・同学術大会について

開催案内

第48回北陸信越薬剤師大会並びに第41回北陸信越薬剤師学術大会は平成20年11月2日、3日にわたり金沢都ホテルで開催されます。大会メインテーマはHealth Professionalとしての薬剤師—くすりの安全・安心管理をめざして—であります。特別講演の講師は、昭和大学病院薬剤部 早瀬 久美 先生です。中森常任理事の紹介のとおり、早瀬先生ご自身の貴重な体験を踏まえてお話いただけるものと期待しております。

日程は、

11月2日(日) 14:30~20:00

薬剤師大会・特別講演・懇親会

11月3日(月・祝) 9:00~12:00

薬剤師学術大会：口頭発表

シンポジウム

ポスター発表

特別講演 演題 聴覚障害者にやさしい医療現場

講師 昭和大学病院薬剤部

早瀬 久美 先生

参加申込 参加申込書

参加登録料 3,000円

懇親会費 7,000円

演題申込 平成20年8月18日(月)

口頭発表

ポスター発表

各5-6題

講演要旨 平成20年9月19日(金)



百万石薪能(写真提供:金沢市)

第48回

第41回

北陸信越薬剤師大会

北陸信越薬剤師学術大会

Health Professional としての薬剤師

—くすりの安全・安心管理をめざして—

会期:平成20年11月2日(日)・3日(月・祝)

会場:金沢市 金沢都ホテル(JR金沢駅東口)

北陸信越薬剤師会・(社)石川県薬剤師会

こころの音

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

世界が持っているあらゆる苦難は
自分のための喜びを欲する事によって生ずる。
世界が持っているあらゆる喜びは
他者の幸せを望むことによって生じる。
シャンティ・デーヴァ

副会長の三浦先生からメールを頂いた。そこには今年開催される北陸信越学術大会の特別講演に早瀬久美さんが決定したことを伝える内容が記されていた。メールを読んだ時から僕の中に一つの世界が存在するようになった。それは「音のない世界」である。

早瀬久美さんはろう者である。彼女は耳が聞こえない。

ろう者のコミュニケーションは筆談・読話・空書・手話・指文字でおこなう。このうちの手話は日本語とは異なる独自の言語体系のため、そこにはろう者独自の文化があると考えられる。さらに手話は日本語などのような音声言語と同等の複雑で洗練された構造をもつ自然言語のため手話を学ぶということは外国語と外国の文化を学ぶようなものだという。

ろう者は耳が聞こえないため音楽を聴いたことがない。音楽という概念すら持ち合わせていないことになる。それを思ったとき、僕の頭の中にフランクのバイオリン・ソナタが鳴り響きだした。エリック・サティのグノーシエンスのような美しい旋

律。音楽による感動の心を持つ経験が無いのであれば世の中とは実に味気ないものなのではないだろうか。

しかし驚くべきことに手話音楽というものがあるらしい。ろう者は音楽を見ることが出来るのである。それは心の音と表現されている。耳が聞こえない人にも音楽を感じてほしいとそんな思いから、健聴者と聴覚障害者の若者たちがバンドを組み、ライブ活動を続けている「こころおと」というバンドもあるそうだ。

言葉とは音声言語だけとは限らない。そのなかで手話が「言葉」そのものの存在する意味を変えているのかもしれない。ホモサピエンスは進化の流れの中で言葉を持たなかった期間のほうがずっと長いのである。

英語では「耳が聞こえない」という身体的状態を小文字のdeafで示し、「ろう者」という手話を用いる集団に属するという社会・文化的状態を大文字のDeafで示すというように二つの区分で表される。つまり必ずしも全ての耳が聞こえない者が「ろう者」ではないということになる。調べていくうちに分かったのであるが、ろう者の用いる手話は音声言語と比べて遜色のない、“完全な”言語であるらしい。ろう文化の中核をなす手話の社会的認知は各国で進んでいて、スウェーデンでは手話がろう者の第1言語として法的に認知されている。1995年にはフィンランドとウガンダが憲法で手話に言及した。特にウガンダ新憲法は文化の文脈で手話を位置づけた点が特筆に値する。またスロバキアでは手話に関する独立した法律が1995年に成立している。

手話について触れた微笑ましいエピソードが彼女の書いた本に書かれていた。

中学部の先生から、ろう者としての生き様をそのまま子供たちに伝えてほしいと言われた。

当日早めに行くと幼稚部のクラスで子供たちが小さい手を動かしてお話していた。しばらくすると5歳の男の子と女の子の手話のやりとりを見ていた。

「いつもふざけてばかりいるから先生に怒られるんだよ。まじめにしてよ」

「ふざけてなんかいないよー。ちゃんと聞いているよ。自分だって悪いことをしている」

「わたしはいつもいい子だって先生に言われたもん」

「先生が見ていないときに悪いことをしているのを見たよ」

思わずふきだしてしまった。手話でしっかりやりとりしている子供たちを見てなんだかうれしくなった。

「こころの耳」伝えたい。

だからあきらめない 早瀬久美著 講談社

彼女のご主人もろう者であるらしいのだが、彼は「聞こえないということに誇りを持って！聞こえない者独自のろう文化がある」と、聞こえないことをもっと堂々とアピールして生きていこうとろう者に勇気を与えている。

薬剤師国家試験に合格したあと薬剤師免許を申請するわけだがその際に診断書が必

要となる。そこにはこう書かれている。

“上記のものは、目が見えない者、耳が聞こえない者、口が利けない者でないことを証明する”これは欠格事項と呼ばれ、この一文があるために彼女の人生は薬剤師免許の交付をめくり翻弄されることになる。

しばらくして担当者の方々が6-7人部屋に入ってきた。中心に帝京大学付属病院で付き添ってきた人がいた。

彼らの表情から免許が交付されるのかムリなのか読み取ろうとしたが、無表情のまままったく読み取れなかった。急なことだったので、手話通訳者は頼まず母からの筆談だけに頼ることになった。

厚生省の担当者が口を開いた。母がその言葉を紙に書き留める。それを私が読む。読みながら目の前が暗くなった。

「却下」だった。

なんとなく、そう言われるだろうと覚悟していた。

＝略＝

気がつくと涙が流れていた。悲しい涙でも悔し涙でもなかった。すっきりしたようななんともいえない涙だった。そのとき、わたしは気づかなかったが、厚生省の担当者や会社の上司たちも目が潤んでいて少し鼻をすすっていたようだ。

この日受けた“却下”という結果をわたしなりに受け止めて厚生省をあとにした。

「こころの耳」伝えたい。

だからあきらめない 早瀬久美著 講談社

我々があたりまえのように手にした薬剤師免許は、ほんのちょっとだけ他者とのコミュニケーションの方法が違うということで免許を与えられなかった人がいる。それに想像してみてもほしい、薬学の授業を彼女は音声情報なしに受けたのである。そこには普通の人の何倍もの苦労があったのであろう。しかし彼女は本の中でそのことを実に楽しそうに語っている。彼女は「却下」の回答後220万人もの署名を集めた。自分のためというよりも、むしろ同じ仲間であるろう者のために戦ったと彼女は言っている。そして2001年法律の改正が行われ彼女に念願の免許が公布される日を迎える。

当日はいつものように目覚めた。前日に決めたスーツを着て、出向していた日本薬剤師会に出勤した。そして車に日本薬剤師会会長（当時）の佐谷先生と日本薬剤師会役員とともに乗り込み、厚生労働省に向かった。真っ黒で高級感の溢れた車だった。こんな車なんてめったに乗れないと思いき、深々とシートに座り心地を味わいながら心を静めた。

厚生労働省に着いた。門の前でいかめしい顔をした守衛が用件は？と聞いてきた。運転手が何かを言った。守衛は心得ましたという顔で通してくれた。守衛さんは外来訪問者の予定を全部把握しているんだろうなあ、と感心しながら車から降り、エレベーターで厚生労働大臣室に向かった。

初めて入る部屋。ここがいつもテレビで見ている坂口厚生労働大臣のお部屋なのかな？ときよろきよろしていた。そこは応接

間だった。手話通訳者も既に来て待っていた。ソファに座って手話通訳者に回りの話し声を通訳してもらいながら、出されたお茶をすすった。

「長かったな。でもいよいよなんだ」

「みんなここまで私を支えてくれていたんだ」

「この日から薬剤師として自覚していかなくてはいけないんだ」

「きちんと挨拶の言葉が言えるかな？」

「免許をもらうとき足が震えたりしないかな？」

手話通訳者の手話をぼんやり見つめながら、次から次へいろんな想いが湧き上がっていた。

「時間です。こちらへどうぞ」

と言われ、はっとして立ち上がった。

「髪は乱れていないかな？」

「お手洗いに言っていけばよかった～」

厚生労働大臣室に入る前に、しょうもないことが頭の中をぐるぐる廻ってきた。

室内に入ると、坂口厚生労働大臣が待っていた。部屋の端っこではロープをはさんでカメラ、テレビカメラ、メモ用紙を構えた報道陣がたくさんいた。変なところを撮られないように、落ち着いているところを見せないと。にっこりしながら大臣の前に立った。

大臣が証書を読み上げた。隣で手話通訳者が通訳している。

“薬剤師免許証 早瀬久美殿 薬剤師法により免許された薬剤師であることを証明する 平成13年7月17日 厚生労働大臣 坂口力”

「おめでとうございます」

この言葉とともに、免許証を手渡された。早瀬久美と書かれた免許証から長年の運動の重みを感じた。そしていままで支えて励ましてくれたみんなに対する感謝の気持ちをずっと忘れまいと心に誓った。免許交付後の記者会見でもフラッシュがまぶしく、たくさんの質問に答えるのに精一杯だった。めまぐるしく過ぎ去った午前中であつた。

「こころの耳」伝えたい。

だからあきらめない 早瀬久美著 講談社

彼女はこれがゴールではなく薬剤師としてのスタートであると書いている。一人の薬剤師としてどのように生きていくかが大切なのだと。これは我々にも言えることであり、改めて身の引き締まる思いを感じる。

人は一人で生きていくことはできない。多くの人の支えがあつて初めて自分の生きる道を歩むことができる。多くの人の支えをもらうためには、出会いがなければならない。そしてひとつひとつの出会いが自分の道を明るく照らしてくれる。

自分が歩いていく道は、かつての先輩たちが歩いた道だ。そしていつか子供たちもこの道を歩くときが来る。自分だけではない。人生の先輩が切り開いたわずかな道をわたしがさらに大きくしていく。その道を力強く歩みながらまた新たな道を作っていく多くの子供たちがあとに続く。私の生きる道はまだまだどこまでも続く。

「こころの耳」伝えたい。

だからあきらめない 早瀬久美著 講談社

早瀬久美さんは平成20年11月2日(日)、15:50分より北陸信越学術大会の特別講演を行う。この決定を支持していただいた石川県薬剤師会の委員の皆様への英断に感謝する。彼女の講演はわれわれ薬剤師一人一人に価値ある変化をもたらすものと期待する。

先日、本屋に行き手話言語の世界を解説する本を数冊買って来た。それを読み、ろう者の世界「手話」がもつ視覚言語的文化を考えてみたい。そして早瀬久美さんの夫の憲太郎さんがどのように手話でプロポーズをしたのか聞いてみたいものである。

健聴者は音のない世界を想像できるがそれを決して実感することはできないだろう。我々は既に音というものを知っているからである。しかし音のない世界の文化の存在を考えることで今の自分を確認できるのではないだろうかと思う。



犬を抱く早瀬久美さん

平成19年度 北陸調剤情報セミナー報告

本年2月24日(日)に金沢スカイホテル18Fにて、北陸調剤情報セミナーが開催されました。悪天候にもかかわらず、約120名の参加者がありました。

今年は、富山大学和漢医薬総合研究所 東田千尋先生、金沢聖霊総合病院 古田一史先生、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科 伊藤真人先生の3名の講師より、漢方薬の基礎から臨床まで最近の知見も交えたご講演がありました。

まず、東田先生からは、「帰脾湯のアルツハイマー型認知症治療薬としての可能性」と題し、アルツハイマー型認知症の記憶障害の原因となる神経細胞死やシナプスの脱落といった脳内の神経細胞変性に対する漢方薬、特に帰脾湯の治療薬としての可能性について、基礎的な研究成果の講演がありました。

以下講演内容として、

「アミロイドβ蛋白(25-35)を脳質内に単回投与したモデルマウスは、神経突起の萎縮とシナプスの脱落が認められ、記憶障害を起こすが、帰脾湯を服用させると神経突起萎縮の改善、シナプス密度の増加、神経細胞死抑制が見られ、記憶障害が回復する結果が得られた。その作用機序として、アルツハイマー病脳内での増加が報告されている。

calpain(タンパク質を分解する作用を持つ)を抑制する可能性を仮説として立て、実験したところ、calpain inhibitorとして、calpain活性を抑制するだけでなく、calpainの発現も抑制することを見い

出した。

また、帰脾湯は空間記憶の獲得障害、保持障害並びに物体認識記憶障害のいずれも回復させるのに対し、calpain inhibitorが空間記憶獲得障害だけしか改善しないことから、大脳皮質、海馬、線条体、脳梁における組織学的検討を行った結果、帰脾湯のみに脳神経軸索やシナプスなどの密度を回復させる作用が認められた。そこで活性分子を探索した所、RETとACK1が帰脾湯により活性化することが確認された。

以上の結果から、帰脾湯にはcalpain inhibitorと類似した作用があるだけでなく、RETとACK1を介して脳内の神経回路網再構築を促進させ、記憶障害を顕著に改善することが示唆され、今後の臨床研究が待たれるところである」と講演を締め括られました。

つぎに、古田先生が「瘀血の研究と臨床」と題し、瘀血の漢方的な病態、現代医学的な病態研究成果と実際の臨床治療についての講演がありました。

以下講演内容として、

「漢方医学では、病気をカラダのバランスの崩れ(証)と捉え、それを是正する治療(随証治療)を基本としている。証の捉え方として、陰陽虚実という概念以外に、気血水という概念があり、瘀血の病態とは、血の流れが滞った状態であり、現代医学的には、微小循環障害、血液年度上昇、赤血球レオロジーという状態である。原因としては、ストレスや運動・睡眠不足、不健全な食生活であり、症候としては、不

眠、精神不穏、皮膚色素沈着、月経異常、腰痛などがある。

瘀血の診断には、瘀血スコアという問診表を使ったり、望診や舌診などを使っている。

瘀血を改善する生薬としては、牡丹皮、桃仁、芍薬、当帰、川芎、大黄があり、代表的な漢方薬としては、桃核承気湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散がある。

瘀血モデルマウスの微小循環を検査すると、血液粘度が上昇しており、これは赤血球集合能の上昇が原因であることが示唆された。臨床的にも瘀血患者では眼球結膜血管の血液循環が悪くなっているが、桂枝茯苓丸を服用することにより、循環改善することが観察された。」と報告され、実際の臨床治験例として、月経痛に対する当帰芍薬散、多関節痛に対する桂枝茯苓丸、うつ状態に対する桃核承気湯を紹介されました。

最後に複合成分系を組み合わせた場合、どういった作用が出るかという研究は難しいが、経験的な効果を科学していくことが今後の課題であると締め括られました。

最後の講演として、伊藤先生が「耳鼻咽喉科領域の漢方治療」と題し、嗅覚障害に対する当帰芍薬散の臨床的有効性、顔面神経麻痺モデル動物での当帰芍薬散の神経細胞死抑制、小児反復性中耳炎に対する十全大補湯の臨床的有用性、進行頭頸部癌に対する十全大補湯の可能性について、講演されました。

以下講演内容として、

「嗅覚障害のうち、感冒罹患後嗅覚障害には、従来、ステロイド点鼻薬が使用されていたが、長期の治療を要し、副作用が懸念されていたが、抗酸化作用、抗炎症作

用、神経成長因子放出作用を有する漢方薬である当帰芍薬散を治療薬として、使用成績を比較検討したところ、有意に有効率が高いという成績であった。

また、当帰芍薬散の神経細胞保護作用を期待して、顔面神経切断後の麻痺回復とNO消去能をモデル動物で検討したところ、投与群と非投与群で顔面運動回復までに差がなかったが、神経核細胞の再生が有意に早く、NOが著明に抑制され、NOS産生が考えられた。

小児急性中耳炎のうち、難治性中耳炎が問題となっており、重症度に応じた抗菌剤の選択や鼓膜チューブ挿入などの治療ガイドラインを専門医で作成したが、集団保育などの要因により、ガイドライン通り、治療してもうまくいかないケースが多い。

今回、重症化の予防の見地から、宿主側の状態を改善する漢方薬の一つである十全大補湯を用いた所、反復症例の罹患回数が有意に減少する成績が得られた。この結果から抗菌剤治療を補助治療として、十全大補湯は有用であると考えられた。

この十全大補湯は免疫・栄養状態を改善する作用があることから、高齢化する進行頭頸部癌の集学的治療の補助治療として、QOL改善も含め、有用性を検討しているところである。」と締め括られました。

今回は3つの講演とも、漢方薬の古典に記載されている経験的な治療効果を現代医学の立場から検証した結果を報告されており、今後更に、エビデンスとして漢方薬の有用性が解明されることが期待される内容でありました。

【古寺との結縁】その6

ふたつの薬師寺展～さくら期のアート～

院瀬見 義弘



二つの薬師寺展のポスター

雪国に住むわれわれにとっては、冬の終わり頃にはことさら春が待ち遠しい。とりわけ今年の春先のように三寒四温期が異常な低温続きでは、早く零寒全温の暖春よ来いとひたすら耐えるより仕方がなかった。今年は特に以下のような理由から、例年にも増して春待ちところは強く大きかった。

昨年秋に、隔月に送られてくる東京国立博物館ニュースで『国宝薬師寺展』が20年3月25日から開催されることを知った。「おーありがたい！ラッキー！これは見ら

れるぞオ。桜と薬師寺展を。」と楽しみが湧き上がってきた。というのは、4月2日に東京竹橋で参合会（大学の同期会）が桜の開花季節にあわせて行われることが一年以上も前から決まっていたからである。

そんな春待ちころろがあふれる2月下旬、薬師寺から『^{はなえしき}花会式』の案内とともに『薬師寺展』招待状が届いた。花会式は春の響きであり、毎年3月30日から7日間厳修される。およそ900年前、堀河天皇の皇后が病氣平癒に感謝して十種の造花を修二



東京国立博物館正門の立看板

会に供えられたのが発祥となり、今日まで絶えることのない伝統行事である。花会式にはこれまで2、3回行ったことはある。

『国宝薬師寺展』には、本堂内の本尊薬師如来の脇侍の日光菩薩と月光菩薩、それに東院堂の聖観音菩薩がお出ましになる。したがって、展覧会の終る6月中頃までは薬師如来だけとなる。薬師如来ひとりの花会式の模様も経験したいとの思いもあるが、今回は断念せざるを得ない。奈良から遠く離れた東京の地で、桜の季節に参合会と三菩薩に再会できるなんて、もう絶対に二度とない機会だ。それもあって参合会の前日（1日）に出発し、上野に着いて国立博物館へ直行した。上野公園も博物館も桜は満開で華やいだ風情はいやがうえにも春爛漫を感じさせてくれる。平日だというの

に薬師寺展の開催されている平成館へ向かう人の波は大変なものである。東京というところは著名な展覧会には実にたくさんの人が集まるところだ。

花会式の期間中なので、薬師寺からどなたかが来ていらっしやるのだろうかと思いつながりながら、『薬劑師だから薬師寺』が掲載されている「いしかわ県薬レポートNo.58」をあらかじめ持参した。うまい具合にこの日は午後3時からこの展覧会について薬師寺僧侶の解説があることを博物館ニュースの最新号で知ったので、それを聴くのも含めて午後はすべての時間を博物館内で過ごすことにした。

会場に入ると先ず、‘八幡三神座像’が神社様式にしつらえられた場に板絵神像とともに展示されている。薬師寺の駐車場から南門へ歩いて行く途中にある休ヶ岡八幡宮に祀られているものであるが、ほとんどの人が無関心に通過する所である。薬師寺の境内に神を祀る八幡宮があるのは、現在の感覚では奇異ではあるが、神仏習合の時代がそのまま残っている。ここでは安田映胤管主を筆頭に僧侶方が法衣姿で揃って神



平成館への道

前に手を合わせるという珍しい光景が見られる。

金堂内に安置される両菩薩は須弥壇に祀られ、仰ぎ見る位置にある。それを展覧会場では、両菩薩の前に高さ1メートル余りの台がしつらえられ、順路として自然にそこを通るようになっていいる。つまり目線の高さがほぼ同じになる位置で拝顔できる。その後くだり坂から平床になり、像の後へも回れるという二体の仏像を余すところなく見られるように展示に工夫が凝らされている。光背がついている時は当然見えないその背中がまじかに見られるので、後ろに回ってじっくり見ている人が多い。前面とまったく同じ細工でどこから見ても素晴らしく繊細なつくり感動する。日光の方が月光よりやや大きい。その背中から腰、臀部にかけての大きさに驚き、また人体と変わらない美しい曲線に見入ってしまう。これが銅で造られたものかと信じられないくらい木彫と変わらないように見える。乏しい表現力ではこれ以上は無理なので、以下に国宝薬師寺展図録の描写を借用する。

‘肉付きの豊かな頬、豊満な胸や腹、どこに触れても柔らかな感触で応じるようにみえる。毛筋を丹念に刻んだ頭髪、軽く曲げる指先など隅々まですべて自然で写実的である。背中中央を窪ませた人間のふくよかな肉付き、肩から垂れて腕にかかる天衣の控えめな襞、裾の折り返しの粘りのある彫り、まるで背面を見られることを前提にしたような入念さである。’

また、図録のなかで安田映胤管主はこう



本館横のしだれ桜

書いておられる。“同じ仏像を拝観しても、仏像の知識があるないによってその捉え方が異なる。蓄積された心の内容によって認識する世界は変わるのである。それを端的に表現して言い伝えられた古歌がある

手を打てば はいと答える 鳥逃げる
鯉は集まる 猿沢の池”

いま服薬指導をする薬剤師とそれを受け止める患者側の多様な心にも通じるような31文字のように思えてくる。

4月末にNHKテレビで‘日光、月光菩薩 はじめての二人旅’の2時間番組があった。12月10日に光背の除去作業が開始されたが、いくつもの木を組み合わせて作られた光背は400年を経て大変に傷みがひどい。法胤師や徹装師らの僧侶方が光背のはずされた両菩薩をお身ぬぐいする様子を見た。徹装師はいとおしむように丁寧その背中を拭きながら、感動の面持ちで語っておられたのが印象的である。東京への出張は平城遷都1300年の記念もあるが、今の世で少しでも人の心を癒し救うことができればとの思いから映胤管主は決断されたということである。

会場には再入場できるので、薬師寺ガイダンスの行われる講堂へ早めに行くことにした。ちょうど受付で当日のパンフレット整理中の僧侶がおられた。見覚えのあるお顔なのでホッとしたが、名前が思い出せない。何気なく胸の名札を見ると生駒基達師とわかった。3年ほど前に、福井でお香をきく会があった折にお会いしたことがある。

整理中の資料は薬師寺別院で同時に開催中の『もうひとつの薬師寺展』で参加者に配布されるものだった。さきの県薬レポートを山田法胤先生にお渡し願うことを依頼しながら、あれこれとお話したあとだった。

「来週、副住職は東京ですので必ずお渡しします。別院の方へもぜひお立ち寄りください。」と、ふところから『もうひとつの薬師寺展』の招待券を出された。



東京別院の朱印

「やあァー、どうもありがとうございます。ぜひとも見させていただきます…。」別院での薬師寺展があることは知っていたが、時間があれば行こうぐらいにしか思っていなかった。招待券をいただいたからには、何としてでも行かなくては一との思いに変わった。

4日の朝、薬師寺別院に向かった。五反田駅から2、3分歩いたところのゆるい上り坂の石畳は散り始めた桜の花びらが敷き詰められて舞台のよう。20年程も前に一度訪れたことはあるが、すっかり忘れた路地になっていた。別院は香道家の邸宅を譲り受けそのままの状態だったので、寺というより旧家の感じだったのを覚えている。それが老朽化のため平成15年に写経道場とお茶室が設けられた新感覚の鉄筋造りの建物として生まれ変わっていた。本堂は二階にあり、三体の重文十一面観音菩薩が祀られている廊下から中に入る。周りに展示されている薬師曼荼羅図や二河白道図などに見入っていた時である。

「ただいまからお勤めをしますから、一緒に般若心経をお唱えください」

どこか聞き覚えのある声だと思いながら振り返ると、なんと大谷徹装師ではないか。

「やあー、いまは花会式の期間ですし、ここでお会いできるなんて思ってもみなかったです。やっぱりよっぽどのご縁なんですね。1日に国立博物館へ行ってきました。」と力強く握手。

「博物館の薬師寺展は大変な人気で、一日8千人ほどの入りだそうです。奈良から



別院近くの石畳坂

今朝一番の新幹線で、いまここへ着いたばかりなんです。奥さまは、どうされました？」

「当初は奈良の西尾さんと一緒に花会式に行く予定でしたが、ちょっと体調が優れないために行けませんでした」。この日この時間に別院を訪ねることができたのも、何かのお導きがあったとしか思えない。

それから数日後に、法胤副住職からご丁寧なお礼状をいただいた。もったいなくもありがたく恐縮の極みである。5月20日のテレビニュースは国宝薬師寺展の入場者が50万人を超えたと伝えた。単純平均で一日8900人前後、とにかく凄い人出であった。



千鳥ヶ淵

三菩薩さまは多くの人に感動と慈悲を与えてくださって、大盛況で幕を閉じた。今は何事もなかったかのように薬師寺の元の場所に納まっておられるだろう。

2日の午前中に観た国立近代美術館での東山魁夷展では唐招提寺の障壁画襖に出会えたのを含め、仏教美術と参考会に浸りきった至福いっぱい東京陽春はあっという間に過ぎ去った。



原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇用紙や宛先等は下記のとおりです。
用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ
切：特に設けていませんいつでもどうぞ
宛先：金沢市広岡町イ25-10
社団法人石川県薬剤師会内

その他：採否は編集係におまかせ下さい。なお、いただいた原稿はお返しできませんのでご了承下さい。

「県薬レポート」編集係
編集員：池田智恵子、坂元 倫子、茶谷美年子、
中森 慶滋、三浦 智子、森 正昭
石川県薬剤師会ホームページのアドレス
<http://www2.icnet.or.jp/~isiyaku/>
会員専用パスワード
ID:ipa01 password:1111(いずれも半角入力)
eメール・アドレス
isiyaku@plaza-woo.jp